

サッカー教室支援／米又力使った手提げ／車いす寄贈：

トヨタカローラ博多（久恒兼孝社長、福岡市博多区）は、地域社会への貢献などを目的にSDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいる。同社の活動をホームページ上で紹介するとともに、社内報でも発信し、従業員と情報を共有している。ホームページなどで情報発信を行う「SDGs推進委員会」は、社内の各部門のスタッフで構成。今後もメンバーの連携を深めながら、SDGsへの取り組みをさらに充実させていく。

キッズキャンパイベント



トヨタカローラ博多

ターゲット2030

持続可能な未来へ

HP使って発信

これまでの取り組みをまとめた。その結果を、ホームページで「地域への取り組み」「社内での取り組み」「その他社会貢献活動」の3つに分けて紹介している。

「福岡県SDGs登録制度」への参加を契機に、こ

SDGsの取り組み加速



半田さん(右)と山口さんの新鮮な感覚が期待されている



異業種との交流で相乗効果も

ツスリターU-6（6歳以下の指導ができる認定証）を取得した同社スタッフが、地元のプロサッカーチームが主催しているサッカー教室の活動を支援している。そのほか、創立50周年の節目となった18年から「北九州マラソン」のオフィシャルサポーターとなり、「エイドステーション」で水やスポーツドリンクを提供するなどイベントを支えている。

客にも好評を得ている。九州エリア外のトヨタ自動車の系列ディーラーからも問い合わせがあるなど注目を浴びている。

への取り組みでは日本サッカー協会（JFA）公認の「キ」素材に米ぬかを使用したもの活用している。プラスチック原料を削減できたのは、米ぬかを使用した手提げ袋でプラスチックを削減したため、環境負荷の軽減やリサイクルの推進につながる。袋は丈夫で水にも強いことから、顧客



米ぬかを使用した手提げ袋でプラスチックを削減したため、環境負荷の軽減やリサイクルの推進につながる。袋は丈夫で水にも強いことから、顧客

6人で推進委員会

これまでの取り組みを通して、異業種との交流が進むなど、新たな活動に結びつく事例も出てきた。北九州マラソンの協賛ブースが隣接していたことが縁で、24年8月から不動産・住宅事業などを手掛ける大英産業（一ノ瀬謙二社長、北九州市八幡西区）の主催する「じやばんまい」キッズプロジェクトの協賛パートナーに加わった。住宅建築の際に出た廃材を再利用し、子どもたちに大工体験を提供する「出張ごも大工」など、SDGsに沿った活動を展開する同プロジェクトの趣



認定証
「キッズプロジェクト」

その他社会貢献活動では、アルミ缶プルタブ回収を継続して実施。この活動を通して、

旨に賛同したものだ。

また、24年11月にはキッズ会員とその家族36組を招いて、北九州市若松区で「第1回ハローキッズキャンプ」を開催した。会場ではワークシ

ョップやびじゅ体験、電動車を活用した電力カフェ、キヤニングカー体験などさまざまなコンテンツを提供。ここでも出張ごも大工のイベントを実施し、子どもたちの学びの場にも役立てた。キッズ会員に喜んでもらうために加え、SDGsの盛り込み度も高く、今秋に3回目開催を予定している。

SDGs推進委員会のメンバーは現在、総務部の馬郡武俊部長、片山風香主任、企画部の藤野昌子課長、山口桃佳さん、車庫部の半田隆主任、サード部の山瀬ゆき主任の合計6人。特に、若手の半田さんと山口さんについては、「新鮮な感覚で活動がけん引してほしい」（藤野課長）と期待されている。

（九州支社 木佐貫 俊二）

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。